

群 教 セ	G09 - 03
	令 4.281集
	英語 - 高

高校英語における多面的・多角的に思考し、 自分の考えを表現する生徒の育成

——思考を活性化するやり取りと

思考の変容における気づきを通して——

特別研修員 原澤 正樹

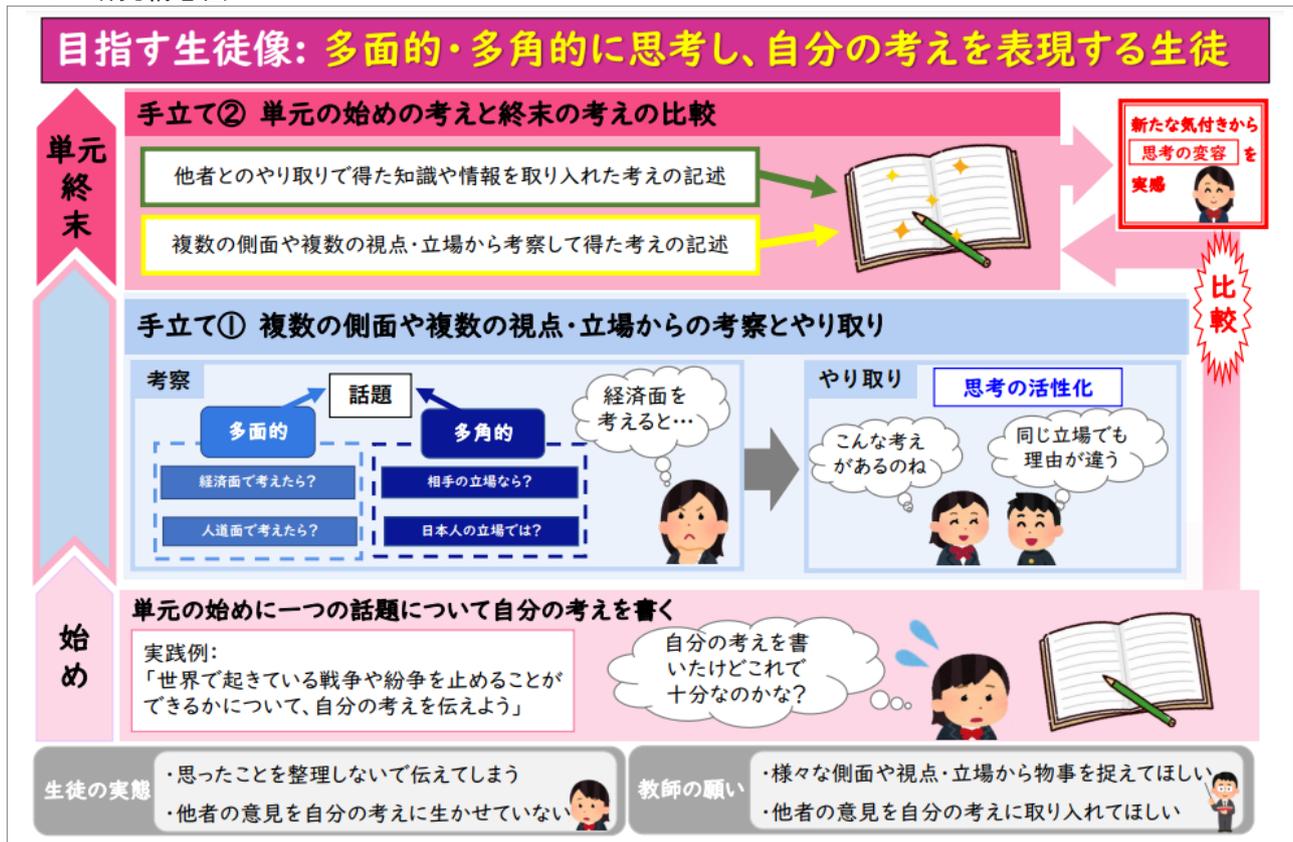
I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年3月）における外国語科の目標では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し表現する能力の育成を目指している。また、高等学校では、日常的な話題や社会的な話題について、より深く多面的・多角的な考察が求められるとされている。

研究協力校において、生徒の学習活動への取組は良好であるが、教師の質問に対して一度思いついた考えを伝えるとそれで満足する姿が見受けられる。また、他者の意見を自分の考えに反映しようとしながらやり取りができていないことが多く、結果として自分の考えや表現を見直すことができず、表現力の向上があまり見られない。そこで、物事を多面的・多角的に捉えられるように、一つの話題について複数の側面や複数の視点・立場で考え、その後他者とやり取りをする活動を設定するとともに、単元の始めと終末における自分の考えを比較し、思考の変容に気付くための振り返り活動を行う。これらの活動により、生徒は物事について多面的・多角的に思考し、整理された自分の考えを表現できるようになると考え、上記のテーマとした。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

一つの話題に対する自分の考えが思いつきのものではなく、様々な思考をした上で表現できるようにするためには、単元を通して自分の考えを様々な考えと照らし合わせる必要がある。そのためには、話題について複数の側面や複数の視点・立場から考える機会を設定するとともに、単元の始めと終末における自分の考えを比較することで、多面的・多角的な思考により自分の考えがどのように変化したかを実感することが可能となる。そこで、以下の二つの手立てを用いて検証することとした。

手立て1 複数の側面や複数の視点・立場からの考察とやり取り

得られた情報や質問された内容に対して複数の側面や複数の視点・立場から個人やペアで考えさせる。また、他者とのやり取りを通して、自分とは異なった考えを知ること、思考が活性化され多面的・多角的に自分の考えを捉えたり、伝えたりすることができるようにする。

手立て2 単元の始めの考えと終末の考えの比較

一つの話題について、単元の始めに書いた考えと終末の考えを比較させる。手立て1の考察や、やり取りを通して、自分の考えにどのような変化が起きたかに気付けるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 単元終末のワークシートや授業中の発話に、単元の始めでは表現することができていなかった内容について述べる姿があった。特に、戦争や紛争を止めるための手段としてSNSや募金の有効性を述べる者が増え、現実的な手段として思考した姿が見られた。また、単元終了後にアンケートを実施したところ、「テーマについて考えを広げることができたか」の問いに95%の生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。また記述箇所では「様々な視点から考えたことで思考が深まった」「多くの視点ややり取りにより自分の考えが変わった」という回答も見られた。このことから、得られた情報や質問された内容に対して複数の側面や複数の視点・立場から考えることは、多面的・多角的に思考するのに有効であったと言える。
- 他者とのやり取りを重ねることで、明確に理由を述べられなかった生徒が徐々に自信をもって考えを伝えられるようになった。アンケートでは「他者の意見が自分の考えに影響したか」の問いに98%が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答し、他者の意見を自分の考えと照らし合わせ、反映しようとしたことが分かる。こうした複数の側面や複数の視点・立場から思考した後に他者とやり取りをすることで、自分と異なる考えを知ることにつながった。
- アンケートの「最初に書いたものと今回の発表用メモを比べて別の視点や立場から考えることができたか」という問いに、86%の生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。また、アンケートの記述では「自分では思いつかなかった考えがたくさん出てきて驚いた」という回答が見られた。単元の始めに書いたものと多面的・多角的に思考した後のメモを比較したとき、自分の考えがどのくらい広がったのか見て取れるとともに、新たな気付きにつながる手立てとなった。

2 課題

- 複数の側面や複数の視点・立場から考えたり、他者とのやり取りを行ったりすることで、多くの生徒は新たな考えに気付くことはできたが、他者から得た情報や考えの取捨選択ができず、自分の考えがまとまらない生徒もいた。このことから説得力のある情報を選択するように助言を与えたり、思考を整理できるようにワークシートを工夫したりすることが必要だと考えられる。
- 単元の始めに書いたものと発表用のメモを比較し、変容した箇所に線を引かせる活動を行った際に、自らの変容に気付けない生徒がいた。教師は考えの変容だけでなく表現方法や書いた内容が増えていることなどに着目させ、生徒の意欲を高めるフィードバックが必要だと考えられる。

実践例

1 単元名 「Lesson 8 “Working against the Clock”」 (第2学年・2学期)

2 本単元について

本単元では、対人地雷のもたらす悲劇と、地雷除去作業用ロボットを考えた日本人科学者について扱っている。対人地雷の除去に奮闘する日本人科学者の体験を通して、現在起きている戦争や紛争の悲惨さや現地の状況を理解することで、世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかという話題について考え、他者とのやり取りを通じて自分と他者の意見の差異に気付くことができる。世界で起きている戦争や紛争を止めるために何ができるかといった社会的な話題について多面的・多角的な思考をした上で、自分の考えを伝えられるようになる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、多面的・多角的に考え、自分の意見をその理由や根拠とともに伝えることができる。	
評価 規 準	(1) 知識・技能 ① 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 ② 世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、自分の意見をその理由や根拠とともに伝える技能を身に付けている。 (2) 思考・判断・表現 聞き手に自分の考えを理解してもらえるように、世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、聞いたり読んだりしたことや他者とやり取りした内容を活用しながら、自分の考えをその理由や根拠とともに伝えている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 聞き手に自分の考えを理解してもらえるように、世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、聞いたり読んだりしたことや他者とのやり取りした内容を活用しながら、自分の考えをその理由や根拠とともに伝えようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・教科書を導入する前に、世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、自分の考えを伝え合ったり、記述したりする。
追究する	第2時	・世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、多面的・多角的に考えるための質問や視点をグループで話し合う。
	第3時 ～7時	・教科書の情報を読み取り、現地の状況（対人地雷がもたらす被害や対人地雷の除去方法）を理解する。その中で日本人科学者がどのように危険な地雷除去作業にロボットを活用したのか、そして現地で抱える問題点について理解をする。 ・世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、複数の側面（経済面や人道面）、複数の視点や立場（戦争で被害を受ける人々の立場や平和な地域で暮らしている人々の立場）から、自分の考えを伝え合う。
	第8時	・世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、多面的・多角的に思考したことや他者とのやり取りで気付いたことを用いて、自分の意見をその理由や根拠とともに伝え合う。 ・世界で起きている戦争や紛争を止めることができるかについて、単元の始めに書いたものと多面的・多角的に思考した後に作成したメモを比較し、考えの変容を確認する。
まとめる	第9時	・多面的・多角的に思考した後に作成したメモを基に、自分の考えを記述する。

3 本時及び具体化した手立てについて

教科書題材に関連した話題について、多面的・多角的に考え、自分の意見をその理由や根拠とともに伝えることを目標として、次のように手立てを具体化した。

手立て1 複数の側面や複数の視点・立場からの考察とやり取り

「世界で起きている戦争や紛争を止めることができるか」という話題について得られた情報や質問された内容に対して複数の側面や複数の視点・立場から個人やペアで考えさせる。また、他者とのやり取りを通して、自分とは異なった考えを知ること、思考が活性化され、話題について多面的・多角的に自分の考えを捉えたり、伝えたりすることができるようにする。

手立て2 単元の始めの考えと終末の考えの比較

「世界で起きている戦争や紛争を止めることができるか」という話題について、単元の始めに書いた考えと終末の考えを比較させる。手立て一つの考察ややり取りを通して、自分の考えにどのような変化が起きたかに気付けるようにする。

4 授業の実際

(1) 単元の始めに考えを書かせる活動

第1時に、戦争で使用された対人地雷が今も多くの被害を与えており、その被害を食い止めるために日本人科学者がロボットを用いて地雷除去活動に取り組んでいることを紹介した。その後、「世界で起きている戦争や紛争を止めることができるか」という話題について考えさせ、ワークシートに記述させた。今自分が思っていることを書くようにと伝えた。

(2) 複数の側面や複数の視点・立場からの考察とやり取り

第2時では、「世界で起きている戦争や紛争を止めることができるか」という話題について、グループで複数の側面や複数の視点・立場から質問を考えさせた。

第2時で出てきた質問から複数の側面を意識した質問（多面的な思考を促す質問）の一つ、複数の視点や立場を意識した質問（多角的な思考を促す質問）を四つ選んだ（図1）。第3時～第7時にそれぞれ一つの質問に対して情報を与え、ワークシートに自分の考えを書かせた。その際、考えをそのまま文章にするのではなく、自分の考

(経済面・宗教面・政治的側面・平和的側面から)	
Q 1 : Do you think wars and conflicts can fundamentally solve those problems?	多面的
Q 2 : Do you think wars and conflicts in the world are irrelevant to Japanese people?	多角的
Q 3 : What can Japan and Japanese people do to stop wars and conflicts in the world?	多角的
Q 4 : Do you think posting on SNS and tweeting are effective ways to stop wars and conflicts in the world?	多角的
Q 5 : Do you think financial supports and donations are effective ways to stop wars and conflicts in the world?	多角的

図1 多面的・多角的な思考を促す質問

えを短い言葉でメモするように伝えた。メモを作成させた後、生徒はペアで意見交換を行い、特に他者の意見をよく聞くこと、さらにやり取りの後は日本語で内容確認や感想を伝え合い、他者の意見をワークシートに記入しておくように伝えた。このやり取りをペアを替えながら4回行わせた。ペアでの活動を重ねるごとに、他者からのフィードバックを生かすことや他者に伝わりやすい表現に改善していくことを伝えた。最初はごちなく自分の考えを伝えていたが、徐々に内容が整理され、4回目になると自信をもって自分の意見を伝えていた。また、質問ごとに意見が変化したり、他者とのやり取りで自分の考えと異なる考えを知って驚いたりしている様子があった。

第8時では、前時までの振り返りとして今まで扱った5つの質問を改めてペアで確認させた。それぞれの質問と回答をペアを替えながら行わせ、日本語で内容確認や感想を伝え合うように指示した。複数の側面や複数の視点・立場から質問や与えられた情報について考えさせ、他者とのやり取りで自分とは異なった考えを確認した後、再度「私たちは将来戦争や紛争を止めることができると思うか。また、将来戦争や紛争を止めるために私たちは何ができるか」という話題について考え、自分の意見を伝えるための発表用のメモを作成するように伝えた。その際、複数の側面や複数の視点・立場から改めて戦争や紛争を止めるために何ができるのかを考え、またこれまでに学んだ知識や他者とのやり取りで得た考えや情報を使用するように伝えた。相手とのコミュニケーションをよりよく行うために、伝えたいことの要点を短い表現でまとめ、相手に伝えるためのアイコンタクトや声の大きさ、リアクションや返答も重要であることを伝えた。Q4やQ5の質問を通して、単元の始めでは重視していなかったSNSや募金の取組が高校生でも行える現実的な手段であると気付き、自分の考えに加える者が見られた。また、他者とのやり取りを通して、相手の国や社会を理解することが最も重要であるという考えを取り入れ、自分の意見に補強をして表現している生徒が見受けられた。



図2 発表用のメモを基に行ったやり取り

次に、発表用のメモを基に、生徒たちはペアで自分の考えやその理由や根拠を伝え合う活動を3回行った（図2）。発表する側は相手を見ながら自分の考えを伝え、聞く側は相手の意見をしっかり聞き、メモを取る様子が見られた。また、やり取りごとに日本語で内容確認や感想を伝え合わせ、表現や伝えたい内容を再度整理するように伝えた。こうしたことから、3回目の発表では多くの生徒が自信をもって相手に自分の意見を伝えている様子が見られた。

(3) 単元の始めと終末の考えの比較

第8時における3回のやり取りが終わった後に、単元の始めに書いたワークシートを返却し、そのワークシートと発表用のメモの記述を比較させた。その際に、自分の考えが変化したり、伝える内容が増えたりした箇所に線を引くように伝えた(図3)。多くの生徒は考えが変容したり、内容が詳しくなったりしている様子が見受けられた。

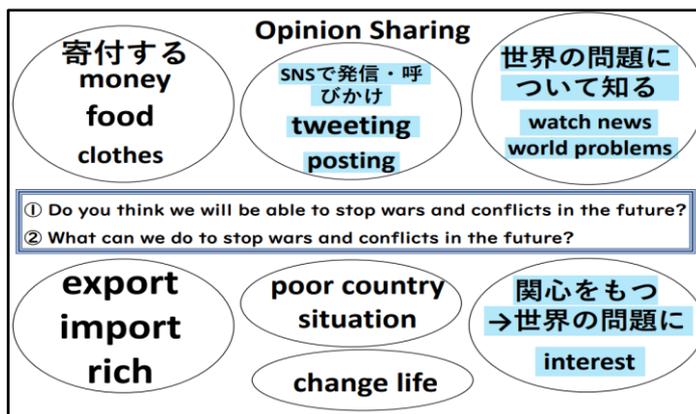


図3 単元の始めに書いたものとメモの比較

加えて第9時において、第8時に作成したメモを基に文法や表現等の言語面を意識させながら自分の考えを記述させた。大半の生徒は単元の始めに書いたものよりも書いている量が増え、複数の側面や複数の視点・立場で考えたことや他者とのやり取りから得られた情報を付け加えたり、理由や根拠を述べるために新たな表現を用いたりするなどして内容面や言語面における変化が見受けられた(図4)。

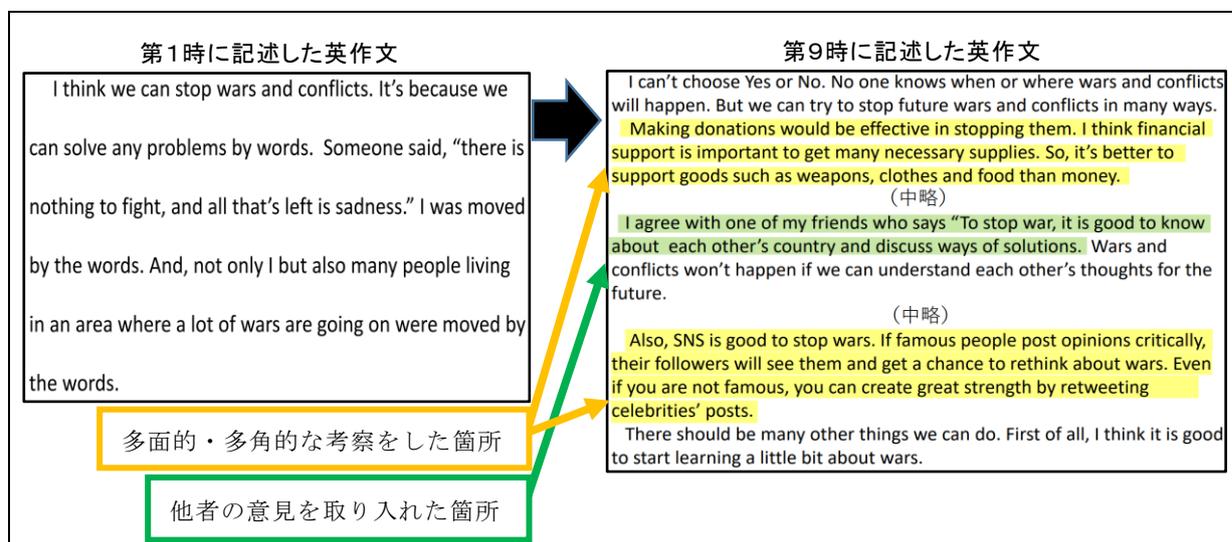


図4 第1時に記述した英文と第9時に記述した英文の比較

5 考察

(1) 複数の側面や複数の視点・立場からの考察とやり取り

単元終了後のアンケートでは、「活動を通してテーマについて考えを広げることができたか」の問いに95%の生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した。一つの話題について複数の側面や複数の視点・立場から考えることは、その話題について広く考えるきっかけになった。「様々な側面で考えることで、それが自分の考えに影響を及ぼすのが分かった」という記述回答もあり、多面的・多角的な思考を促す手立てになったと考えられる。他者とのやり取りは、異なる考えに繰り返し触れることで、他者の考えを自分の意見の補強のために活用したり、自分の考えを整理したりすることに役立ったと考えられる。

(2) 単元の始めの考えと終末の考えの比較

単元の始めの考えと終末の考えを比較すると、多くの生徒が第1時には書いていなかった視点を取り入れて表現できており、新たな気付きにつながっていることが分かった。また、単元終末である第9時の記述を見ると、新たな視点だけでなく、記述する量が増え、内容も詳しくなっていることが分かった。複数の側面や複数の視点・立場から考えることや他者とのやり取りを通じて、考えや意見を広げることができたと考えられる。